

# アイデアの交流から生まれる 新しい出会いと学び

## ——京田辺-今出川間の交流と ローム記念館での放映及び座談会の開催——

ラーニング・アシスタント 奥田耕平  
(理工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程)  
学習支援・教育開発センター 助教 趙智英

### 1. はじめに

本稿では、2021年度にラーニング・コモンズ（以下、LC）のオンラインサポート「おうち De LC ポータル」で開催された「2021年度アイデアの交流会：オンライン」について報告する。

アイデアの交流会は、2020年12月にLCの利用学生に向けた学習支援に携わるアカデミックサポートエリアの教員、アカデミック・インストラクター、ラーニング・アシスタント<sup>1</sup>（以下、LA）らから協力を受けながら、本稿の著者である京田辺キャンパスラーネッド記念図書館LC（以下、京田辺LC）のLA・奥田耕平と、京田辺LCの機器利用サポートスタッフ（2020年度当時）の中島大介氏によって企画・実行されたオンライン型フリーアイデア発表会である。2021年度は、2021年4月から2022年2月まで隔週火曜日の15時から15時40分の間で、第13回まで開催された。春学期、秋学期を通して合計で19件のアイデア発表が行われた。

アイデアの交流会のさらなる発展と拡大を目指し、今出川キャンパスと京田辺キャンパス両校地の交流活性化、ローム記念館劇場空間での放映、そしてアイデアとは何かを徹底的に議論する座談会の開催など、様々な新しい挑戦を行った。本稿では、2021年度の取り組みを振り返りながら、お互いの考えやアイデアを交流させることで生まれる新しい出会いと学びについて検討する。

## 2. 経緯

### 2.1 今出川－京田辺キャンパス間の交流

2020年度のアイデアの交流会は、2020年12月から2021年2月まで開催され、各自専門の異なる18人の学生によって合計22件のアイデア発表が行われた。多種多様なアイデア発表及びディスカッションが行われ、様々な新しい学びと出会いの機会に恵まれた。しかし、その発表参加者及び聴講参加者の多くは京田辺キャンパスの学生であり、今出川キャンパスの学生からの参加は少なかった。今出川－京田辺キャンパス間の交流が活性化すれば、新しい出会いはもちろん、文・理両方の考え方や発想が上手く協奏し、今まで得ることのできなかった新しいアイデアの誕生が期待できる。以上の考えから、2021年度は、今出川-京田辺間交流の活性化と文理融合を目指し、今出川キャンパスの学生に積極的に聴講・発表参加を呼びかけた。具体的には、京田辺LCのみではなく、今出川キャンパスの良心館LC（以下、今出川LC）館内に設置されているデジタルサイネージでも告知及び開催状況の放映を行い、かつ、両校地LCのLAや教員、アカデミック・インストラクターの協力を得ながら、面識のある今出川キャンパスの学生への発表参加の勧誘も積極的に行った。

### 2.2 ローム記念館劇場空間での放映

2020年度のアイデアの交流会は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、すべて「おうち De LC ポータル」上でのオンライン形式で開催された。「おうち De LC ポータル」は2020年度から運用を開始したラーニング・コモنزのMicrosoft Teamsチームである。両校地LCのコンセプトである「知的欲望開発空間」をオンラインで実現するだけでなく、LCや図書館で感じた誰かが一緒に勉強している感覚、勉強していて気になることがあったらすぐ質問ができる手軽さをオンラインで提供するための取り組み（趙2021）としてつくられた。「おうち De LC ポータル」には、オンライン学習相談ができるチャンネルや、大学での学びに役立つアカデミックスキルに関するセミナーが開催されるチャンネル、オンラインイベントのアーカイブや学習支援コンテンツの閲覧ができるチャンネルなどがある。アイデアの交流会は、オンラインイベント専用のチャンネルで実施された。

アイデアの交流会では、現地に集合する必要がない、ネット環境があればどこからでも参加できる、PC画面上に映し出されるためスライドの文字や画像などが見やすいなど、オンラインならではの利点にふれることができた。しかし、参加者のほとんど

は「おうち De LC ポータル」の存在を知っているLC関係者やその知人であり、外部参加者が少ないという課題があった。よって、2021年度は、LC外部の学生・教職員にもアイデアの交流会の存在を発信することを目指し、京田辺キャンパスにあるローム記念館の劇場空間で放映を行った。ローム記念館スタッフの方々からの協力を受け、劇場空間の大型スクリーンを使ってオンライン開催の音声・映像をすべて放映した。ローム記念館で放映することで、ローム記念館で勉強、または休憩、あるいは通りすがりの学生や教職員にも会の存在を発信でき、アイデアの交流会をさらに拡大・発展できるものと考えた。

### 2.3 アイデアの座談会 ～アイデアとはなにか？～

2020年度アイデアの交流会では、発表者各自がアイデアを考え、それを発表・ディスカッションするという形式であった。各発表において、アイデアの良いところや課題、改善点など様々な議論が行われ、新しい学びと出会いの場がつけられた。しかし、確かに様々な人物によって多くのアイデアが創出されたが、そもそもアイデアとはなにか？アイデアはどうやって生まれるのか？など、アイデアという概念そのものについて議論する機会はなかった。よって、2021年度は、アイデアの交流会1周年記念特別企画として、本稿著者である奥田と京田辺LC機器利用サポートスタッフ（2021年度当時）の中島大介氏、また、2020年度アイデアの交流会発表者でありLAのOBでもある研究開発支援機構特別任用助教（2021年度当時）玉井湧太先生の3人で、アイデアとは何か？について徹底的に議論する座談会を開催した。学生と教員がアイデアの生まれ方やあり方などを議論することで、アイデアについてさらに深く追求できるものと考えた。



### 3. 成果

表1. 2021年度アイデアの交流会学生発表一覧（※所属・学年は当時のもの）

タイトル	所属・学年
『先輩も知らない使わないと損！学内施設！』 『学内猫自動判別装置』	生命医科学部 4年
『専攻以外も挑戦したい！！』	生命医科学研究科 博士前期課程 2年
『聴覚フィードバックからなる発声制御メカニズムの解明』	生命医科学研究科 博士前期課程 2年
『自動車間におけるスタンプコミュニケーション』、 『おトクな電車旅をしよう』	生命医科学研究科 博士後期課程 1年
『運動部は必要か』、『ハンバーガーは身体に悪いのか？』	スポーツ健康科学研究科 博士前期課程 1年
『人工知能による自律性支援』	心理学研究科 博士後期課程 3年
『みなさん、SIEDを知っていますか？』、 『同志社大学学生団体共通SNS計画』	理工学部 2年
『なんちゃってハイヒール』	理工学部 4年
『酸化グラフェンナノメッシュを用いた自己治癒骨の開発』	理工学研究科 博士前期課程 1年
『キャンパス留学 in Japan ～留学生との異文化交流～』	理工学研究科 博士前期課程 1年
『国内外におけるe-sportsの発展』	理工学研究科 博士前期課程 2年
『学び友だち出会いアプリの開発』、 『京田辺キャンパスホテル建設計画』	理工学研究科 博士後期課程 2年
『学生の特権、考えてみる？』	経済学研究科 博士前期課程 2年
『大学寮の機能とは？』	社会学研究科 博士前期課程 1年

#### 3.1 今出川ー京田辺キャンパス間の交流：新しい出会いの機会

表1のとおり、2021年度アイデアの交流会では、全19件のアイデア発表が行われた。

その内2件は今出川学生（経済学研究科博士前期課程2年、社会学研究科博士前期課程1年）によるものであった。発表参加だけでなく、今出川キャンパスの学生の聴講参加者も回を追うごとに増えはじめ、2021年度のアイデアの交流会は両校地間の交流活性化の良いきっかけとなった。今出川LC館内のデジタルサイネージでの告知、学生・教職員の協力のもと行われた今出川キャンパスの学生への参加勧誘、そして、発表・聴講参加者の積極性と熱意が生んだ成果と考えられる。

今出川キャンパスと京田辺キャンパスは地理的に距離があり、どうしても両校地の学生間での交流は少ない傾向にある。しかし、アイデアの交流会のように、各校地の学生が自由に参加できるオンラインイベントを開催することで、従来のサークルや部活動、講義とは異なる、新しい出会いの機会をつくることができると実感できた。また、アイデアの交流会では、アイデアのテーマやジャンルの指定はなく、全ての発表者が自由に自身の考え・発想を発表できる形式をとっている。このスタンスを貫くことで、アイデアの交流会はこれからも今出川キャンパスと京田辺キャンパス、両校地共に発展・拡大できるものと期待している。

### 3.2 ローム記念館劇場空間での放映：臨場感と達成感

京田辺キャンパスのローム記念館劇場空間での放映は第6～12回まで行われた。放映の際は、ローム記念館スタッフの方々に協力を受けながら、階段に障害物を設置、また、現地での注意喚起、マスク着用や着席の際は前後左右1m以上の間隔を空けるなど、新型コロナ感染対策を徹底した。

本稿の著者である奥田が現場の雰囲気を見学したが、実際にスクリーンに大画面で映し出されたパワーポイントスライドと、劇場空間全体に流されたアイデア発表及び質疑応答の音声は、従来のオンライン開催では感じることの難しかった、凄まじい臨場感に溢れていた。また、ローム記念館で放映することで、自身のアイデアをより広く発散することができるという意識が生まれ、参加者全員のモチベーションや達成感が向上し、従来よりもさらに活発なアイデア発表及びディスカッションに発展したものと感じられた。さらに、新型コロナ感染対策のため、現地で注意喚起に協力して頂いたローム記念館スタッフ及びLC関係者が、通行人の数人からアイデアの交流会について質問をうけるなど、ローム記念館劇場空間での放映は、LC外部の学生及び教職員への発信・拡散に確かな効果を与えたものと考えられる。

ローム記念館劇場空間での放映は、適切な手順をとれば、全ての学生が利用可能である。アイデアの交流会オンラインの劇場空間での放映は、そのようなローム記念館

の活用方法のさらなる認知拡大にも貢献できたものと考えられる。

### 3.3 アイデアの座談会 ～アイデアとはなにか?～：楽しむことから生まれる学び

アイデアの交流会1周年記念特別企画として開催されたアイデアの座談会は、両校地LCの教員、アカデミック・インストラクターの協力を受けながら計画され、2021年12月14日（火）15時から40分間、京田辺LCのワークショップルームで行われた（図1：告知ポスター）。もちろん、この座談会は「おうち De LC ポータル」でオンライン中継され、その状況はローム記念館劇場空間にも放映された。上記したとおり、登壇者は奥田と、中島大介氏、玉井湧太先生の3人で行われた（図2：座談会の様子）。座談内容は、以下のとおりに行われた。

#### 【座談内容】

- ・アイデアの交流会の「これまで」
  - ・テーマはどのように決めたか？
  - ・発表の準備中に考えたこと
  - ・発表のフィードバックや、自分自身の感想
  - ・発表するとどんないいことがあるか？ = 未来の発表者への推薦コメントなど
  - ・質疑応答
  
- ・アイデアの交流会の「これから」
  - ・次に発表するとしたらテーマや形式は？
  - ・どんなアイデアが聞きたいか？
  - ・交流会の形式は？ など
  - ・質疑応答

上記の座談内容のとおり、前半はこれまでのアイデアの交流会の振り返り、後半ではこれからのアイデアの交流会をイメージしながら、「アイデアとは何か？」を登壇者3人でディスカッションした。

前半では、アイデアのテーマは趣味や得意科目など、自分の好きな分野から考える、または、実際に自身の生活の中に存在する課題を解決するための方法から考えるなど、様々な意見が得られた。発表準備の際は、いかに専門的な内容を誰にでもわかるように発表するかなど、確実に相手に自身の考えを伝えることに専念するという考えが共

有された。アイデアの交流会でアイデア発表して得られるメリットとしては、自分が気付かなかった良い点・課題点にふれることができる、異分野の人との新しい出会いが得られる、さらには、自分の考えやひらめきを堂々と発信できるなど、様々な意見を交換できた。オンラインでの聴講参加者からの質疑応答では、アイデア発表の準備にはどれくらい時間がかかるかなど、アイデアの交流会への発表参加の意欲が感じられる積極的な質問が得られた。

後半では、対面での開催や、今まで以上の今出川キャンパス-京田辺キャンパス両校地間の交流活性化、エンターテインメント性の向上、また、アイデアソンのように、SDGsなどから何か1つテーマを決めて、それを数人で意見を出し合う形式での開催、さらには、大学内外の組織との連携・共同、アイデアの交流会発の製品・ブランドの誕生など、アイデアの交流会のさらなる発展・拡大を目指した様々な前向きな意見が得られた。

座談会は終始楽しい雰囲気で行われ、「アイデアとは考えるものではなく、ふってくるもの」「アイデアはまっしろなパズルのようなもの」「アイデアはとても楽しいもの」という結論が得られた。今後のアイデアの交流会も「楽しい」をメインに開催することをより決心できる座談会となった。

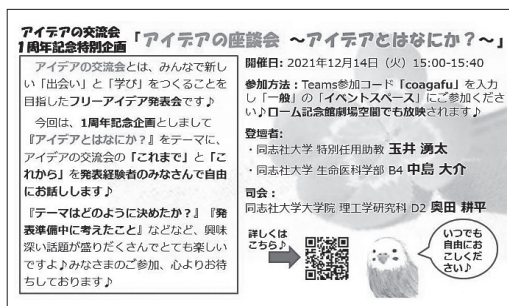


図1 アイデアの座談会告知ポスター



図2 アイデアの座談会の様子

## 4. 今後の展望

2021年度は、校地間の交流、ローム記念館での放映、座談会の開催、その他にも創造科学教育夏期研修に参加する学生及び教員の参加、アイデアの交流会で発表されたキャンパス留学<sup>2</sup>の実現など、様々な発展・拡大がなされた。今後の展望として、2022年度は本会のさらなる発展をめざし、2021年度以上に両校地間交流の活性化、ロー



ム記念館との交流、座談会など対面での開催計画に努めることはもちろん、アイデアソンなど、今までとは異なる形式での開催や、大学内部の様々な組織との連携・共同、さらには、アイデアの交流会発の製品・ブランドの誕生などを逐次検討していきたい。

今もなお、新型コロナの感染拡大の脅威は続くが、新型コロナ感染対策のために行われた努力から得られた功名は多い。これまでの経験を活かしながら、今後も様々なアイデアの交流から生まれる新しい出会いと学びの実現を目指していきたい。

## 謝辞

アイデアの交流会の企画・実行、そして本稿を執筆する過程でご協力いただきました学習支援・教育開発センターの皆さま、両校地LA、京田辺LCの機器利用サポートスタッフの皆さまに心より感謝いたします。

## 文献

趙智英・矢内真理子, 2021, 「コロナ禍における学習相談のあり方——オンラインと対面の並行による学習相談の有効性と課題——」『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』(12): 18-29.

## 注

- 1 ラーニング・アシスタントとは、同志社大学良心館LC（今出川キャンパス）とラーネッド記念図書館LC（京田辺キャンパス）のアカデミックサポートエリアで利用学生からの学習相談に応じる大学院生スタッフである。
- 2 「キャンパス留学 in Japan」とは、京田辺LCのLAである理工学研究科博士前期課程1年（2021年度当時）の企画により、同志社大学LCを基軸に「国境・学部学科を越えた仲間づくり」を展開するという趣旨で開催されたイベントである。世界中で起こっているパンデミックにより、大学生の国際交流経験の機会が失われた。加えて、同志社大学でも来日できずに現地からネット配信授業のみを受講する留学生も多数いるのが現状であった。つまり、日本人学生、留学生の双方が、大学在籍時に、国際交流により、異国の友人を作り、異国の言語を学び、異国の文化を学び、そして、多角的な広い視野を持つ経験が阻害されていた。また、キャン



パスに来られないためLCをはじめ大学の施設を利活用できず、学習支援を受けられることを知らない留学生も多く見受けられる中、現状を少しでも改善するために立ち上げられたプロジェクトであると企画者であるLAは述べる。本イベントは2021年度春学期に2回、「おうち De LC ポータル」のオンラインイベント専用チャンネルで実施された。